

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）		科目名	骨折理論（下肢）	
科目基礎情報							
開設学科	柔道整復科		コース名			開設期	後期
対象年次	2年次		科目区分	必修		時間数	30時間
単位数	2単位		授業形態	講義			
教科書/教材	教科書（柔道整復理論 -社団法人 全国柔道整復学校協会 監修-）に準拠する。						
担当教員情報							
担当教員	杉本 知			実務経験の有無・職種		有・柔道整復師	
学習目的							
柔道整復の歴史は古く、武道と結びつくことで独特の発展を遂げ、その医療技術は柔道整復術として現代に継承されている。近年の高齢化やスポーツ愛好家の増加に伴い、柔道整復師による手術をしないで怪我を治す技術、整復や固定といった技術に対するニーズは年々高まっている。患者の肉体的な苦痛を一刻も早く取り去り、患部の回復を図ることによって早期に社会復帰させるためには適切な知識と技術が必要であり、なおかつ患者からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上も必要である。医学的知識や技術だけではなく、人間性の向上も含めた学習を理解させることがねらいである。							
到達目標							
柔道整復施術の観点から下肢の骨折に対して、部位別に具体的な外傷の発生機序、症状（一般外傷症状・固有症状）、病態や整復・固定・後療法などの施術の判断や方法に至るまでの注意事項を学ぶことができる。あわせて骨障害としての骨損傷を学ぶ上で必要な機能解剖学を理解する。骨折を理解するためには、骨折に関連した運動器の機能解剖学を理解することが最も重要であり、骨折による骨片の転位、整復、固定を考える上で不可欠であると考え、理解に努める。							
教育方法等							
授業概要	下肢を中心に骨傷害としての骨折を学ぶ上で必要な機能解剖を学ぶとともに、骨折の発生機序、症状、骨片転位、整復、固定、後療法、全体のプログラム、指導管理、予後、注意事項等を学ぶ。						
注意点	実技的要素が高く卒業後は患者の体を扱うため、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視するとともに授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。社会、特に医療の現場の動きや学生の状況などを概説するので、自分でも、情報を収集し、起こっている事象の原因や今後の推移について考えること。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験・課題	70%	試験と課題を総合的に評価する				
	小テスト	0%					
	レポート	0%					
	成果発表 (口頭・実技)	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する				
平常点	0%						
授業計画（1回～15回）							
回	授業内容			各回の到達目標			
1回	下腿骨近位端部骨折、下腿骨骨幹部骨折			下腿骨近位端部骨折、下腿骨骨幹部骨折に対して、その特徴、病態、発生機序、症状、施術の判断・方法を理解する			
2回	下腿骨近位端部骨折、下腿骨骨幹部骨折			下腿骨近位端部骨折、下腿骨骨幹部骨折に対して、その特徴、病態、発生機序、症状、施術の判断・方法を理解する			
3回	下腿骨骨幹部骨折			下腿骨骨幹部骨折に対して、その特徴、病態、発生機序、症状、施術の判断・方法を理解する			
4回	下腿骨骨幹部骨折			下腿骨骨幹部骨折に対して、その特徴、病態、発生機序、症状、施術の判断・方法を理解する			
5回	下腿骨遠位端部骨折①			下腿骨遠位端部骨折に対して、その特徴、病態、発生機序、症状、施術の判断・方法を理解する			
6回	下腿骨遠位端部骨折②			下腿骨遠位端部骨折に対して、その特徴、病態、発生機序、症状、施術の判断・方法を理解する			
7回	下腿骨遠位端部骨折③			下腿骨遠位端部骨折に対して、その特徴、病態、発生機序、症状、施術の判断・方法を理解する			
8回	1回から7回の振り返り			1回～7回の知識が蓄積されているか確認する			
9回	足根骨骨折①			足根骨骨折に対して、その特徴、病態、発生機序、症状、施術の判断・方法を理解する			
10回	足根骨骨折②			足根骨骨折に対して、その特徴、病態、発生機序、症状、施術の判断・方法を理解する			
11回	足根骨骨折③、中足骨骨折			足根骨骨折、中足骨骨折に対して、その特徴、病態、発生機序、症状、施術の判断・方法を理解する			
12回	足趾骨骨折、			足趾骨折に対して、その特徴、病態、発生機序、症状、施術の判断・方法を理解する			
13回	実技の成果発表			1回～12回の知識と技術が蓄積されているか確認する			
14回	9回から13回の振り返り			9回～13回の知識が蓄積されているか確認する			
15回	半期の総括			全体のまとめ			